

滋賀県内における近年のコクチバスの生息状況

山本充孝・石崎大介

1. 目的

特定外来生物コクチバスの確認数が琵琶湖を含めて、近年、県内において増加しているため、琵琶湖本湖における繁殖を防止して漁業被害を防ぐため、生息状況を把握した。

2. 方法

これまでに定着が確認されているダム湖A（湖東地域）とダム湖B、C（ともに甲賀地域）の3つのダム湖で2021年5月～2023年6月の主に春～夏期に餌としてスジエビ（シラサエビ）を用いた釣りによる調査を実施した。

また、2021年以降の漁業者や研究者からのコクチバスの採捕、確認報告と今回の採捕調査の結果をあわせてとりまとめた。

3. 結果

採捕調査結果と報告事例をまとめて表に示した。ダム湖A、B、Cは2007年から2010年に繁殖が確認されて以降、15年程度経過しているが、2022年においてもすべてのダム湖もしくはダム湖直下で複数の幼魚が採捕されたことから、現在も繁殖を繰り返し定着していると考えられた（図）。

表における7の報告では採集した河川は、上流でコクチバスが定着している野洲川の石部頭首工から取水をしており、採集された個

体は野洲川より流下して拡散した個体であると考えられるとしている。

また、これまでの調査や報告によって、これらのダム湖下流のすべての河川で何度も複数個体が採捕されており、ダム湖から河川下流域へとコクチバスが流下したことは明確である。琵琶湖における漁業者からのコクチバスの採捕報告も供給源はダム湖である可能性が高い。すなわち、ダム湖で繁殖した幼魚が河川から琵琶湖へと流出して琵琶湖への侵入を繰り返していることが想定される。

さらに、8の報告では琵琶湖岸で複数の繁殖可能な大きさのコクチバスによる繁殖行動が確認されている。琵琶湖での再生産自体は今のところは確認されていないものの、再生産を防ぐためには供給源と考えられるダム湖から琵琶湖への侵入を防止するための新たな対策が必要と考えられる。



図 捕獲されたコクチバスの成魚と幼魚

表 コクチバス採捕・確認記録

日時	場所	カテゴリー	採捕数	採捕者または確認者	出典等
1 2021年8月	湖南市岩根の農業排水路	河川		淡海生物研究会	淡海生物4: 16-18(2023)
2 10月	琵琶湖（彦根市松原沖）	琵琶湖		漁業者	
3 11月	Bダム湖流入河川	ダム湖上流	数十尾	滋賀水試	令和3年度 滋賀水試事報p.84
4 2022年6月	Aダム湖（湖東地域）	ダム湖	3尾	滋賀水試	
5 6月	Bダム湖（甲賀地域）	ダム湖	2尾	滋賀水試	
6 6月	Cダム湖（甲賀地域）	ダム湖直下	数十尾	滋賀水試	
7 10月	栗東市 中ノ井川(葉山川支流)	河川	1尾 (1尾目視)	龍谷大学	淡海生物4: 22-24(2023)
8 2023年5月	琵琶湖(近江舞子北浜)	琵琶湖	2尾目視	高島高等学校	淡海生物5: 18-21(2024)
9 6月	Cダム湖（甲賀地域）	ダム湖直下	数十尾	滋賀水試	
10 2024年6月	Cダム湖（甲賀地域）	ダム湖直下	2尾	滋賀水試	
11 6月	琵琶湖（野洲市中主沖）	琵琶湖		漁業者	
12 2024年8月	琵琶湖（高島市北小松）	琵琶湖	2尾	漁業者	

※網掛けは複数個体の採捕または確認